

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は104円台を中心に堅調な推移か

[2月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月8日～2月12日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	105.42	105.67(8)	104.41(10)	104.86	-0.53
ユーロ・ドル	1.2039	1.2149(11)	1.2020(8)	1.2127	+0.0081
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,520.07	+1178.12	日本10年債利回り	0.066	+0.006
ダウ平均株価	31,430.70	+282.46	米10年債利回り	1.163	0.000
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 15日 日本第4四半期国内総生産(GDP)1次速報  
英2月ライトムーブ住宅価格  
日本12月鉱工業生産指数確報値  
ユーロ圏12月貿易収支  
カナダ12月製造業出荷
- 16日 独2月ZEW景況感指数  
ユーロ圏第4四半期域内総生産(GDP)改定値  
米2月NY連銀製造業景気指数  
米12月対米証券投資
- 17日 日本1月貿易収支、日本12月機械受注  
英1月消費者物価指数、英1月生産者物価指数、英1月小売物価指数  
カナダ1月消費者物価指数  
米1月小売売上高、米1月生産者物価指数  
米1月鉱工業生産・設備稼働率  
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(1月26～27日開催分)
- 18日 豪1月雇用統計  
ユーロ圏1月消費者物価指数  
米1月住宅着工・建築許可件数、米1月輸入価格指数  
米新規失業保険申請件数、米2月フィラデルフィア連銀景況指数
- 19日 NZ第4四半期生産者物価指数  
日本1月消費者物価指数  
豪1月小売売上高  
独1月生産者物価指数  
英1月小売売上高  
独2月製造業・非製造業PMI速報値  
ユーロ圏2月製造業・非製造業PMI速報値  
英2月製造業・非製造業PMI速報値  
ユーロ圏12月経常収支  
カナダ12月小売売上高  
米2月製造業・サービス業PMI速報値  
米1月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】米国での追加経済対策による景気回復への期待感の高まりや財政支出の拡大が米長期金利の上昇につながり、ドルのサポート要因となり、ドル円は底堅い推移を見せて、緩やかに上値を追う展開となりそうとした。

【ドル円は104円台でのみみ合い続く】

米国での追加経済対策への期待感などを背景にドル円は5日に105.77近辺まで上昇を見せた。追加経済対策のために財政支出が拡大するとみられ、米国債の発行拡大が見込まれ、米長期金利が上昇しており、ドル買いの動きにつながった。

米10年物国債利回りは、5日に一時1.18%台、週明けの8日には1.19%台に上昇する場面も見られた。ただ、その後は上昇一服となっている。米連邦準備制度理事会（FRB）による量的緩和の縮小（テーパリング）観測なども米長期金利上昇の背景にある。もっともパウエルFRB議長はテーパリングの議論は時期尚早との見解を繰り返して表明している。

8日以降は米長期金利の上昇一服などもあり、ドル円は軟調な地合いを続けてきた。5日にかけての上昇の反動に加えて、10日の1月の米消費者物価指数が弱い結果となったことなどが重石となった。9日に105円を割り込むとその後104.41付近まで下落した。ただ、大きな崩れはなく、104円台半ばから後半での推移を見ている。

10日にパウエルFRB議長のNYエコノミッククラブでの講演が行われた。議長は「米経済は力強い労働市場から依然程遠い。辛抱強く緩和的な金融政策が重要」などと述べた。先日のFOMC後の会見同様に慎重姿勢を強調した発言ではあるが、ある程度想定されていた内容であったことから、市場の反応は限定的となった。

米国株は過去最高値近辺での推移が続く中、引き続き米追加経済対策の行方が注目材料となりそうだ。ただ、材料としてはかなり織り込まれてきたこともあり、米経済指標の動向や米長期金利の動きがポイントとして意識されそうだ。

新型コロナウイルスの感染再拡大は景気に与える影響が警戒されるものの、米国の景気は徐々に持ち直して、米長期金利も底堅い推移が見込まれる。こうした中、ドル円は104円を大きく割り込むことはなく、104円台を中心に堅調な推移となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、104.00～105.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本第4四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本12月鉱工業生産指数確報値、16日に米2月NY連銀製造業景気指数、米12月対米証券投資、17日に日本1月貿易収支、日本12月機械受注、米1月小売売上高、米1月生産者物価指数、米1月鉱工業生産・設備稼働率、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（1月26～27日開催分）、18日に米1月住宅着工・建築許可件数、米1月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数、米2月フィラデルフィア連銀景況指数、19日に日本1月消費者物価指数、米2月製造業・サービス業PMI速報値、米1月中古住宅販売件数などがある。

【ユーロドルは戻り一巡後は再び下落か】

ドル買いの動きが一服して、ドルは軟調な流れを見せている。ドルインデックスは5日の90.60台から11日に90.26近辺まで軟化した。こうした動きに歩調を合わせて、ユーロドルは1.19台半ばから1.21台半ばまで戻りを見せた。その後は1.21台での推移となっている。

今後のユーロドルの動向は、独2月ZEW景況感指数、ユーロ圏第4四半期域内総生産（GDP）改定値、ドイツやユーロ圏の1月の製造業・非製造業購買担当者景気指数（PMI）といった経済指標に左右される展開が見込まれる。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、経済指標の改善にはまだ時間がかかりそうだ。このため、ユーロドルは戻り一巡後は再び下げに転じるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1900～1.2250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に英2月ライトムーブ住宅価格、ユーロ圏12月貿易収支、カナダ12月製造業出荷、16日に独2月ZEW景況感指数、ユーロ圏第4四半期域内総生産（GDP）改定値、17日に英1月消費者物価指数、英1月生産者物価指数、英1月小売物価指数、カナダ1月消費者物価指数、18日に豪1月雇用統計、ユーロ圏1月消費者物価指数、19日にNZ第4四半期生産者物価

指数、豪1月小売売上高、独1月生産者物価指数、英1月小売売上高、独2月製造業・非製造業PMI速報値、ユーロ圏2月製造業・非製造業PMI速報値、英2月製造業・非製造業PMI速報値、ユーロ圏12月経常収支、カナダ12月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。